

校友会 会報

YAMAGATA
UNIVERSITY
KOYUKAI

ご挨拶

昔と今・・・

ふすま同窓会会長 **長沼 龍平**
(校友会副会長)



校友会設立10年を明年に控えた重要な年回りに副会長を仰せつかりました『ふすま同窓会会長』の長沼龍平です。昭和35年文理学部文科法律を卒業し55年の馬齢を重ねてまいりました。学部同窓会の枠を越えた全学的視野に立って校友会事業の発展に努めてまいる所存です。どうぞよろしくお願い致します。

人文学部と理学部に改組された文理学部は旧制山形高等学校を母体として、山形師範学校が教育学部に、米沢工業専門学校が工学部、そして山形県立農林専門学校が農学部へと現在と変わりなく各キャンパスが分散して昭和24年新制大学として発足し、医学部も開校し今日にあります。

その8年目昭和31年に入学してから半世紀経っても大学とかかわることができ、その変貌発展を目の当たりにし、学生、諸先生に接しながらいささかでも母校を支援できる立場にいることは真に幸せなことであります。

整備された高層建築の校舎群と敗戦の貧しさを引きずり補修も儘にならないままに大学となった学園環境は比べようなくとも、文科1学年100人、クラス50の少人数は友情の血潮が溢れていた(学生歌)

ように思います。学寮での5人部屋、少しゆとりがあるものは下宿と、汽車通の私にとってはコンパの後で行きつく格好のねぐらとなっていて随分とお世話になったものです。同窓会報の記事を見た同期のH君から50数年ぶりの手紙が届き、食べ物のない時代、寮生活の空きっ腹に君の重箱の赤飯には皆で感激して食らいついたと遠い記憶を覚まさせてくれた。赤電話が目につき始め、長距離電話など高額で念頭になく、緊急連絡は電報が速達便が連絡手段で、先輩、隣人との日常会話や手紙等で仕来りに触れ、表現力をつけ、大人の社会をマスターしていったと思っている。電子機器は伝統的醇風美俗を埋没させてしまった。赤電話は忘れ去られ、公衆電話すら見かけない。老いの線言となりましたが、先輩として山形大学で学んだことを誇りに後輩の皆さんに何かヒントとなるものを残せたらと思っています。



ボブラ祭(昭和33年)にて(左から2人目が長沼副会長) ※ボブラ祭は、当時、文理学部学友会で開催されていた文化祭です。

山形大学OB & OGセミナーを開催しました

平成27年3月7日(土)に、毎年恒例となっている「山形大学OB & OGセミナー」をキャンパス・イノベーションセンター(東京都港区芝浦)を会場に約120名の首都圏在住の皆さまにご参加いただいて開催しました。

小山清人学長(校友会会長)による山形大学の現況を含めた挨拶の後、渡辺修身地域教育文化学部准教授による「クラシック音楽の楽しみ方～モーツァルトのオペラを中

心に～」と荒木志伸基盤教育院准教授による「史跡調査から見てきた山形の歴史ー山寺・慈恩寺・出羽三山ー」と二つの講演が行われました。

引き続き懇親会が開催されましたが、今回は若手卒業生の参加も多く、和やかな雰囲気の中、幅広い年代の卒業生の皆さんと本学関係者とが大いに交流を深めました。



小山区長の挨拶



渡辺准教授による講演



荒木准教授による講演



昭和20年代卒業の皆さん



若手卒業生の皆さん

新入生保護者の皆さまと山形大学との交流会

平成27年6月27日(土)に、小白川キャンパスにおいて「平成27年度新入生保護者の皆さまと山形大学との交流会」を開催しました。この交流会は、保護者の皆さま相互、また、保護者の皆さまと教職員とが親睦や交流を深めるとともに、大学運営の実情や本学の教育研究等について理解いただき、本学をより身近な存在に感じてほしいとの思いから開催しているもので、校友会の支援事業として実施しています。7回目となる今回は全国各地から200名を超える方々にご参加いただきました。

地域教育文化学部音楽芸術コースの学生による「大学歌」及び「学生歌」の演奏に始まり、小山清人学長の挨拶の後、本学の教育・研究紹介として、千代勝実基盤教育院教授による講演『基盤教育について』、新入生4名による授業紹介『現役山大新入生による基盤教育科目レポート』、出口毅大学院教育実践研究科教授による講演『心理学から学ぶことを考える』が行われました。

保護者の皆さまのアンケートでは、「大学生の生活・学習の仕方など知ることができてよかった」等の声が寄せられ、学生による発表も好評で、保護者の皆さまの関心度の高さが感じられました。



学生による発表



出口教授による講演

千載一遇

理学部物理学科 4年 土田颯人 さん

派遣先：カトリカ大学（ペルー）

留学期間：2014年8月～2015年7月



ペルーの最高の仲間とともに（右から4人目が土田さん）



北の街 カハマルカにて

独特な市場のにおい。バスの呼び込みの声。サルサの音楽。キスをする恋人達。目を閉じるとペルーの色彩や音が蘇る。様々な人種と文化が融合した南米ペルーで一生忘れることのない出会いを経験した。

「地球の反対側に位置する新興国を自分の目で確かめたい。」それが留学の動機であった。ほぼゼロから始まったスペイン語圏での留学は、想像以上に大変なものであった。伝えたいことが伝えられない。途切れる会話。今の自分に必要な表現、単語は何なのか寝る間も惜しんで勉強した。ペルーの世界観に染まりたい、それが一番のモチベーションであった。

スペイン語の上達と共に仲間も増え始め、海風が香る夜の街で一緒に踊り、肩を組んで語り合った。ペルーの街には音楽が溢れ、そして、家族は、愛に溢れていた。日本とは異なる家族や恋人への愛情表現に触れながら、家族が自分にとってかけがえのない存在だと気づかされ涙があふれた。

首都リマから郊外に出れば、そこには粗末な服を身にまとい、親の手伝いをする子供達。鉱山開発をめぐる激しく対立する政府と地域住民。そんなペルーの現状を垣間見て心が痛んだと同時に、ペルーの社会問題を考える機会を持つことができた。日本とは比較にならない貧困問題や大自然が作り出した壮観な景色、匂いそして音。すべての経験が私にとってかけがえのない宝物となった。

一步踏み出すことで今を変えることができる。一步踏み出せば、そこには新しいものや人との出会いが必ずあり、その出会いから今までとは違う考え方や気づきを得ることができる。これが、この一年間の留学生活から得た教訓である。目を閉じるとあの日々が鮮明に蘇る。ペルーでの留学は、自分の心に一生輝き続けるだろう。

山形大学校友会への入会について（申し込みのご案内）

ー山形大学校友会に未だ加入されていない卒業生等の皆さんへー

本会の趣旨にご賛同のうえ、別紙「払込取扱票」へ必要事項をご記入いただき、「郵便振替」によりお振込み願います。

会費の納入により入会の申込みとさせていただきます。

会員となられた方には定期的に校友会会報（メールマガジンを含む）や山形大学の広報誌をお届けし、折々に山形大学の現況をお伝えしております。

1. 会員：生涯会費を納入いただいた次の方々です。

- (1) 本学の学生（保護者の場合を含む）
- (2) 本学の卒業生
- (3) 本学の役員及び教職員（退職者を含む）
- (4) 前項以外の本学に関係する者

2. 会費：10,000円（生涯会費）

3. 払込方法

所定の別紙「払込取扱票」によりお願いします。
なお、無い場合は「校友会事務局」へご請求いただくか、郵便局に備え付けの「払込取扱票」をご利用ください。
また、その際、次の記入例を参考に、必要事項をご記入ください。

（通信欄記入例）

卒業生の場合：○年度卒業（修了）、○学部（大学院）

退職者の場合：退職時の部局名

趣旨賛同者の場合：趣旨賛同の旨表示、個人、法人名
メールマガジンの配信や各種行事等についての情報提供
を希望される場合にはメールアドレスを記載願います。

4. 払込時期

入会申込みは随時受け付けておりますが、新入生（学部、大学院共）については、入学手続き時において、諸会費等の納入と合わせて申込みをいただいております。

5. 振替口座（ゆうちょ銀行）

次の「山形大学校友会」名義の振替口座へお振込みください。
なお、専用の「払込取扱票」以外の場合は、振込手数料を、別途ご負担いただくことになりますのでご注意ください。
口座番号：02200-7-89697

校友会支援事業の紹介

平成26年度partⅡ

平成26年度校友会支援事業を紹介します。(会報第5号にpartⅠを掲載しています。)

就職活動支援



学生中心に行う優良企業訪問

学生キャリアサポーターが企業13社を訪問してお話を伺い、報告書『山大学生が企業訪問に行ってきました』を作成しました。

首都圏開催合同企業説明会への参加

東京で開催された合同企業説明会「マイナビ就職EXPO」に参加しました。



修学支援

山形大学東京サテライト

卒業・修了制作展

3月4日から7日まで、キャンパスイノベーションセンター（東京都港区芝浦）を会場に開催しました。

オペラを核とした《附属校との協働》及び《高大連携事業》の推進

オペラ公演「アマールと夜の訪問者」の公演経費の一部を支援しました。

「大学間交流協定大学への派遣留学生校友会支援事業」支援金贈呈式

平成27年度に山形大学派遣留学制度により海外の協定大学に留学する皆さんへの校友会支援金の贈呈式が平成27年7月30日(木)に、校友会会長である小山学長、大場、安田両理事・副学長らの出席のもと行われました。

小山学長より前期から留学する15名のうち、当日出席した13名の学生一人一人に支援金の目録が贈呈された後、長沼龍平校友会副会長(ふすま同窓会会長)から、健康に留意して後輩たちがこれに続くように実りのある留学生活を送ってほしいという激励の言葉が贈られ、学生一人一人から留学に向けての決意や抱負が述べられました。

これまでの先輩たち同様に、充実した留学生活にしていきたいと思います。留学先からの楽しいレポートもお待ちしております。元気で行ってらっしゃい！



山形大学 グローバル化 支援



学術交流協定校への 超短期学生派遣プログラム

カトリカ大学（ペルー）での異文化交流プログラムに参加した10名の学生に支援金を贈呈しました。



博士課程学生研究発表奨励事業

国内外での国際学会で発表を行う35名の学生に支援金を贈呈しました。（写真はポスター発表を行う高橋広太さん（大学院理工学研究科（工））

公認サークルへの 支援

全国大会等に参加した11の団体等への遠征費の一部補助及び物品購入等の支援を行いました。（写真は全国大会出場を勝ち取った剣道部）



課外活動 支援



山形大学雪合戦大会

今回は悪天候のため、残念ながら屋内での「大ビンゴゲーム大会」となりました。

大学・社会 活動支援



科学で山形盛り上げ隊への支援

各地での科学実験イベント実施のための交通費等を支援しました。



高齢化率の高い離島における継続した 東日本大震災復興支援事業

「桂島観光再生ツアー」実施のための学生の宿泊料等を支援しました。

平成27年度「大学祭」のご案内

校友会では今年も大学祭を支援します。各キャンパスで次のとおり開催されますので、皆様、是非この機会にご友人とお誘い合わせの上、お越しください。

米沢キャンパス「吾妻祭」

平成27年
10月10日（土）～12日（月）



小白川キャンパス「八峰祭」

平成27年
10月24日（土）～25日（日）



鶴岡キャンパス「鶴寿祭」

平成27年
11月7日（土）～8日（日）



現在も歌い継がれる学生歌「みどり樹に」。

昭和33年にこの歌を作词された宮下 (旧姓・菅原) 威さん (昭和34年3月教育学部4年制小学校教員養成課程卒) から、作词された当時の様子を寄稿していただきました。

昭和30年4月、私が山形大学教育学部に入学してから、60年の歳月が流れた。

学生時代は、興譲館寮 (※) にお世話になり、育英会の奨学金と家庭教師のアルバイトで、学費と生活費をやりくりしていた。友人の多くは、似たように貧しかった。

当時、大学では、部活動やサークル活動が活発で、学友会なども活気があった。

私は、児童文化研究部に所属し、作文や児童画など、多くの仲間と共に学んだ。夏休みになると、人形劇のグループをいくつか編成し、山形県内の各地区を、グループ毎に、人形や紙芝居を持って、主に僻地の小学校を巡回公演して歩いた。

学生歌「みちのくの」を作词した鈴木実氏は、同じ児童文化研究部の先輩であり、氏から、児童文学について指導を受けた。

昭和31年には、砂川基地問題、教育委員会法の改正、33年には、教員の勤務評定、「道徳」の新設などで、全学連や日教組による反対運動が、全国的に広がっていた。

教育学部を卒業すれば、誰でも教員になれる時代ではなくなり、昭和32年からは、山形県でも教員採用試験が実施された。

県内に就職することは難しくなり、多くの友人が、関東、関西、北海道まで飛び出して行った。これからの若者は、山形を原点として全国的に活躍する時代なのだ。山形を離れても、それぞれの地域で、さらに飛躍してもらいたい。そんな思いで、学生歌募集メ切の前日、一気に歌詞を作り上げ、応募した。

後日、運よく入選の知らせを受けた。詞につけられた橋場富藏氏の曲は、歌い易くて、拙い歌詞が引き立つようだった。

「ふすま同窓会」で毎年“みどり樹”を歌っている、と東京に住む同級生から知らされ、光栄に思うと共に、橋場氏の曲が優れているお陰と感謝している。

後年、“みどり樹”という酒が発売されたことを知り、飲んでみたら、よい味だった。

今や、山形大学の各学部が、研究成果を上げられ、日本全国、世界につながる活躍をなされていることに、心から敬意を表している。

傘寿を迎えた私は、若者たちの生きていく未来が、戦争のない平和な世界であることを切に祈っている。

※山形興譲館寮 (米沢有為会) は昭和37年まで山形市葉師町にあった寄宿舎



平成27年7月自宅裏の畑で



昭和31年大学2年興譲館寮の仲間と (右端が宮下さん)



昭和33年大学4年児童文化研究部の人形劇グループ (左端が宮下さん)

山形大学学生歌「みどり樹に」

作词：菅原 威
作曲：橋場 富藏

- みどり樹に 風がながれるように
さわやかな 若人のうたごえ
遠く海を越えて
世界の果まで ひびくよ
われらの歌う 口唇に
友情の血潮は あふれる
- 大地から 草が萌えでるように
たくましい 若人の生命は
高く峯を越えて
世界の果まで のびゆく
われらの輝く ひとみには
平和のねがい みなぎる
- 大空に陽が 輝くように
かぎりない 若人の夢は
はるか雲を越えて
世界の果まで とどくよ
結んだ腕で 新しい
未来を築く われらよ

♩ = 110 ~ 120 爽やかに明るく

みどり樹に 風がながれるように
さわやかな 若人のうたごえ
遠く海を越えて
世界の果まで ひびくよ
われらの歌う 口唇に
友情の血潮は あふれる

大地から 草が萌えでるように
たくましい 若人の生命は
高く峯を越えて
世界の果まで のびゆく
われらの輝く ひとみには
平和のねがい みなぎる

大空に陽が 輝くように
かぎりない 若人の夢は
はるか雲を越えて
世界の果まで とどくよ
結んだ腕で 新しい
未来を築く われらよ

※学生歌「みどり樹に」は、YouTubeでもお聴きいただくことができます。

各同窓会の紹介

地域教育文化学部同窓会川崎支部

川崎支部の結成には一つの物語がある。支部結成以前は、山形大学教育学部同窓会の支部としては、首都圏をカバーする東京支部という大きな組織しかなかった。そんな中、昭和26年卒同期生が15名も同時に川崎市に勤務するようになり、昭和28年の暮れに、念願の同期会を開くことができた。

その後も大衆酒場で勝手なことを語り合い、次第に先輩・後輩を探し出して、いずれ同窓会をつくり、親睦を図りたいということになった。

その当時の川崎市教育委員長は、山形師範大正2年卒の風巻義雄先生で、いわゆる同窓の先輩でもあり、先生のご指導のお蔭で、同窓会の芽吹きが加速し、昭和32年6月22日、山形大学教育学部同窓会東京支部川崎地区会が誕生したのである。

東京支部の庇を借りた活動が始まるが、10年後に分離独立し、東京支部から分家した形は58年後の今も忘れることのできない歴史である。また先輩が残した言葉として、「同窓会は、ただ、飲み食いしながら話し合う場ではない」という考えのもと、活動の在り方を「会員相互の連絡を密にして、親善融和と研修を図ることを目的とする(川崎支部会則第3条)」と、具体的な活動の在り方を残し



平成27年度総会

佐々木正彦地域教育文化学部
副学部長(左)と
木村康二地域教育文化学部
同窓会会長



て下さったことが定着している。とくに、総会時に行う学部長の講演会と、会員が講師となって学び合う2月研修会は、大事にしている学びの場となっている。和気藹々とした川崎支部のムードを大事にしながら、これからも成長していきたいと願っている。(現在会員数104名、物故者数28名、退会者数29名) (支部長 荒木和男)

校友会役員紹介

(平成27年7月1日現在)

役 職	氏 名	推薦部局等	役 職	氏 名	推薦部局等
会 長	小 山 清 人	山形大学長	//	山 崎 洋 一 郎	一般社団法人米沢工業会(工)
副会長	長 沼 龍 平	ふすま同窓会(人文・理)	//	齋 藤 博 行	鶴窓会(農)
//	神 戸 士 郎	工学部	//	大 場 好 弘	山形大学理事
理 事	大 宮 孝 治	人文学部後援会	//	國 方 敬 司	人文学部
//	井 上 宏 彦	地域教育文化学部後援会	//	竹 田 隆 一	地域教育文化学部
//	丹 野 憲 昭	理学部後援会	//	栗 山 恭 直	理学部
//	阿 部 吉 幸	医学部医学科後援会	//	山 川 光 徳	医学部
//	角 田 正 一	医学部看護学科後援会	//	松 山 裕 城	農学部
//	長 谷 部 利 信	工学部後援会	//	結 城 敏 夫	事務職員
//	長 南 邦 彦	農学部後援会	//	岩 城 功 希	学長推薦
//	木 村 康 二	地域教育文化学部同窓会	監 事	丸 山 俊 明	
//	加 藤 丈 夫	蔵王会(医・医学科)	//	寒 河 江 良 三	
//	佐 藤 和 佳 子	樹氷会(医・看護学科)			

山形大学校友会メールマガジンを配信しています。

校友会では、山形大学や校友会に関するさまざまな情報をお届けするため、山形大学校友会メールマガジン「みどり樹通信」の配信を行っています。

特に、会員である本学学生の皆さんで配信(無料)を希望される場合は、校友会ホームページの専用ページから申し込みください。

また、卒業生の皆様からも山形大学や学生への応援メッセージ、学生時代の思い出等についてのご寄稿を広く募集しておりますので、お気軽に校友会事務局までお寄せください。

山形大学大学歌

作詞：石先 麻美・難波 千鶴
作曲：大谷 靖夫
編曲：中村 康就



大学歌
ダウンロードは
こちら

大学のホームページからも
ダウンロードができます。

- 春風に 希望をのせて
桜の光 仰ぎ見る
若葉の緑 きらめいて
力みなぎる 若き瞳
決意を胸に 手をつなぐ
我らが学び舎 山形大学
- 知を深く 真理を求め
語りあかそう 集い来て
星のまたたき 想い馳せ
学びを拓く 強き瞳
己を信じ 進みゆく
我らが学び舎 山形大学
- はるかなる 未来を照らし
流れる川の 絶え間なく
日々を彩る 雪模様
次代を担う 明き瞳
夢を抱いて はばたこう
我らが学び舎 山形大学



山形大学校友会では、事業の一環として、大学のイメージアップと4キャンパス一帯の醸成を目的として大学歌の普及活動に対しての支援を行ってきました。なお、大学歌はYouTubeでもお聴きいただくことができます。

校友会事務局から

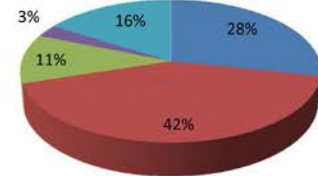
平成26年度収支報告(単位:円)

1. 収入

区 分	決 算 額
会 費 収 入	19,780,000
雑 収 入	26,366
前年度から繰越	17,019,849
合 計	36,826,215

2. 支出

区 分	決 算 額
事 業 費	19,617,495
運 営 費	3,538,572
次年度への繰越	13,670,148
合 計	36,826,215



■ グローバル化推進支援 ■ 修学・課外活動への支援
■ 就職活動への支援 ■ 大学・社会貢献活動への支援
■ 会員相互の親交を図る事業

平成27年度校友会支援事業

校友会理事会(6月24日開催)において、平成27年度校友会支援事業として次の29事業を決定しました。

- 「業界研究セミナー」並びに「OB・OGフォーラム」支援
- 首都圏開催合同企業説明会への参加と東京サテライト案内
- ビーチサッカー大会in庄内
- 卒業生等による学生支援体制の整備
- 大学間交流協定大学への派遣留学生校友会支援事業
- 各キャンパス大学祭への支援
- 公認サークルへの支援
- グローバル化に向けた授業への修学支援
- 博士課程学生研究発表奨励事業
- 新入生保護者の皆さまと山形大学との交流会
- 山形大学卒業生講演会
- 山形大学雪合戦大会支援
- オペラを核とした《附属校との協働》及び《高大連携事業》の推進
- 山形大学東京サテライト 卒業・修了制作展
- 校友会推薦図書コーナー「後輩には是非、こんな本を読ませたい!」
- 実践教育プログラム 合宿型交流ワークショップ
- 山形大学実践教育プログラム 長期インターンシップに向けた現地研修の実施
- 山形大学校友会大学院学生表彰制度
- 高齢化率の高い離島における継続した東日本大震災復興支援事業
- 学生中心に行う優良企業訪問への支援
- 科学で東北盛り上げ隊への支援
- 新興国学生大使派遣プログラム
- 卒業生の「人財バンク登録事業」を活用した学生支援事業
- 校友会新会員となった新入生への入会記念品の贈呈
- 若手卒業生の組織化支援
- 山形大学駅伝大会
- 首都圏就職活動時のセカンドキャンパスの整備
- マレーシアとの学生交流拡大事業
- 国立科学博物館「発見!体験!先端研究@上野の山シリーズ」企画 山形から未来を照らすサイエンス ～見る・聞く・感じるイノベーション～を通して卒業同窓生等に山形大学の「昔と今」を発信する

山形大学エンrollment・マネジメント部

山形大学校友会事務局

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12

TEL: 023 (628) 4867 FAX: 023 (628) 4185

E-mail: ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈校友会ホームページ〉 <http://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/>